



**JUNIOR RED CROSS**

私たちの青少年赤十字

気づき、  
考え、  
実行する。



自他の生命と健康を大切にする。  
人間として社会のため、  
人のためにつくす責任を自覚し、  
実行する。  
広く世界の青少年を知り、  
仲良く助け合う精神を養う。



## 青少年赤十字のはじまり

第一次世界大戦の時、戦場となったヨーロッパで苦しむ多くの人々を励ますために、アメリカやカナダ、オーストラリア、イタリアの学校の先生と生徒が、学校で作った作文やプレゼントなどを赤十字を通じて送りました。このことがきっかけとなり青少年赤十字が生まれました。

大戦後、赤十字社連盟（現在の国際赤十字・赤新月社連盟）が作られ、国境を越えた子どもたちの活動をヒントに、赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人間に成長してほしいという願いから、一九二二年に各国赤十字社の中に青少年赤十字が創設されました。

日本の青少年赤十字は、一九二二年に滋賀県の守山小学校で生まれた「少年赤十字」から数えて一〇〇年以上の長い歴史をもっています。

## 赤十字を教材に「生きる力」を育てる

青少年赤十字は、将来を担う青少年が赤十字を正しく理解し、進んで赤十字運動に参加することを通じて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、日常生活の中で、望ましい人格と精神を自らつくりあげることが目的とした事業です。

新学習指導要領では、「生きる力」を教育の柱に掲げ、それを「自ら学び、考え、主体的に判断する能力」と位置付けました。青少年赤十字では、児童・生徒が自主的で、自立した態度を養うために「気づき、考え、実行する」という目標を掲げています。自主自立の精神を養い、主体的に行動できる力を養う様々な指導方法、そして「健康・安全、奉仕、国際理解・親善」を柱とする実践活動は、「生きる力」を養う上で大いに役立つことと思われます。



### 青少年赤十字の 実践目標

#### 健康・安全

命と健康を大切にす

#### 奉 仕

人間として社会のため、人のために  
つくす責任を自覚し、実行する

#### 国際理解・親善

広く世界の青少年を知り、なかよく  
助け合う精神を養う

### 青少年赤十字の 態度目標

#### 気づき

身近な問題を発見する

#### 考 え

問題解決のための道筋や方法を探る

#### 実行する

活動に取り組み、評価と反省を次へ  
活かす

### 具体的な活動例

- ボランティア活動や学校内外の美化活動
- 救急法等の講習の受講
- あいさつ運動やノーチャイム運動
- 海外赤十字メンバーとの交流
- リーダーシップ・トレーニング・センターへの参加

## 先生方の声

### 栃木県立小山西高等学校

布川 裕美 先生

青少年赤十字は、人間の尊厳を守り、苦しんでいる人を救うという、赤十字の精神に基づいて、児童生徒が、命と健康の大切さを意識し、奉仕の気持ちを育み、地域社会や海外に目を向け主体的に気づき行動できるよう、学校教育の中でさまざまな機会を提供しています。それは、学習指導要領が目指す「生きる力」を育むために求められる、「自分ごととして『考え、議論する』道徳性」や、「社会の中で自立し、他者と連携・協働して社会に参画する力」の育成につながります。JRCの活動を通して子どもたちは、自分の考えをしっかりと伝えられるようになり、地域や社会に貢献する人の役に立つ人間になること心がけ、課題に気づき解決のために行動するようになります。変容していく子どもたちを目の当たりにできることは、指導者にとっても豊かな体験です。



# 青少年赤十字に加盟し、指導方法を取り入れてみませんか？

学校教育で求められている「生きる力」は  
青少年赤十字がめざす態度目標と同じです。

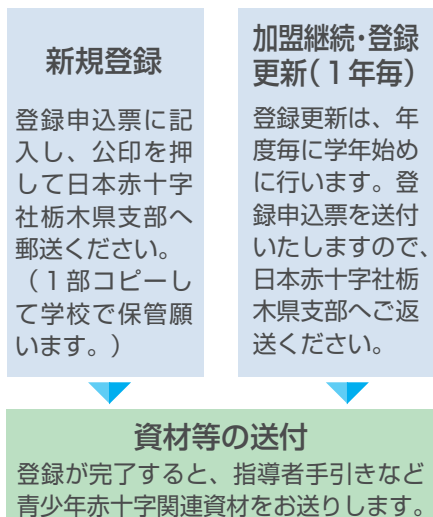
**学校教育**  
では

1	自主的で自立した子どもを育てます。 青少年赤十字の態度目標「気づき」「考え」「実行する」は、自主的・自立的な人間の形成に結びつきます。	人権・道徳教育の基本となります。
2	ボランティア・サービス（奉仕活動＝V・S活動）による問題解決力を育てます。 自分の利益を求めない自発的な奉仕活動（「ニーズの発見」「課題解決の準備・計画」「実行」「反省」）により、様々な問題を解決していく力を育てます。	体験的活動・奉仕的活動が重視されています。
3	先見を重視し、自己決定力を育てます。 先を見通して考え、自分の態度を決定する力を育てます。「先見の時間」や「5分前行動」「注意深い生活態度」を大切にします。	見通しを持って計画的に学習や生活をする事は「キャリア教育」にもつながります。
4	指示のない自発的な生活を目指します。 他人に指示や命令をされず、自ら考え、学び、生活する力を育てます。「合図のない生活」などともいいます。	自己決定力や自己責任を育てます。
5	指導者は「待ちの姿勢」を大切にします。 自ら考え、課題を解決していくためには子ども自身がまず「気づく」ことにより意欲を高めることが重要です。指導者は注意深く見守ります。	一人一人の内面を理解し、温もりと厳しさを持って見守ります。

## 加盟登録方法

- 裏表紙の「登録申込票」に記入・捺印し、当支部へお送りください。後日、署名票・バッジ・資材等をお送りします。
- 毎年度ごとの更新となります。（学校の実情に合わせて加盟形態をお選びください）

## 加盟登録の流れ



## 加盟形態

<p><b>1</b></p> <p><b>全校加盟</b></p> <p>全児童・生徒が青少年赤十字のメンバーとなります。</p>	<p><b>2</b></p> <p><b>児童・生徒会加盟</b></p> <p>児童・生徒会の役員だけが青少年赤十字のメンバーとなります。</p>	<p><b>3</b></p> <p><b>学年または学校単位加盟</b></p> <p>特定の学年あるいは学級単位でメンバーとなります。</p>	<p><b>4</b></p> <p><b>クラブ加盟</b></p> <p>クラブ（部・委員会）活動の一つとしてクラブ員がメンバーとなります。</p>
--	---	---	--

- \* 学校・幼稚園・保育所における青少年赤十字の採り入れ方については、定型はありません。
- \* 学校教育活動の一環ですので、原則として、学校長（園長）の承認と担当していただく教師が必要です。
- \* 活動を強要させたり義務を課せられることはありません。



# 青少年赤十字の資材を 活用してみませんか？

青少年赤十字の指導方法の取り入れ方や、実践例を掲載した指導者手引書各メンバー（生徒）用のテキストなどのほか、防災教育に特化した教材をご用意しています。是非、これらの資材をご活用ください。



## ● まもるいのち ひろめるぼうさい ●

生徒が主体的に取り組めるような「気づき・考え・実行する」を重視した「コミュニケーション力」「想像力」等を養う、防災グループワークプログラムを収録しています。

災害の写真・イラスト・映像や、被災を体験した方の作文なども収録されており、特別活動・総合・道徳のほか、各種教科でもご活用いただけます。

## ● ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん ●

間違い探しを楽しみながら、学習指導要領・幼稚園教育要領に定められた防災分野での高い学習効果を実現する教材を目指し作成された教材で、普段の生活の中に潜む危険なモノや人の行動を学び、災害時にとるべき行動を学ぶことができます。



## ● いえまですごろく ●

実際の災害現場では人々の協力がないと出来ないことが数多く発生します。この教材は、すごろくと同じくサイコロを振ってコマを進めていくもので、途中にはプレイヤー同士が協力し、救助を行わないと先に進めないマスがいくつか存在します。

プレイヤー同士が協力してコマを進めることで、災害時の知識を学ぶことができます。防災教育の最初の一步としてご利用いただけます。





JRC活動では同じ高校の人だけではなく多くの学生や他県、外国の方とも関わることが出来ます。なので活動を行う際は多くの仲間がいて、集まった仲間の数だけアイデアが生まれます。JRCはその生まれたアイデアを生かせる場所です。自分が気づき、皆で考え、皆で実行する、この流れを繰り返すごとに仲間がどんどん増えていきます。JRCの活動は考えれば考えるだけ出来る事が増え、自分と世界をつなげていってくれると思います。

栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会 会長  
矢板高等学校 2年 藤田 勝也 さん

私は、多くの青少年赤十字メンバーとの交流により主体的に行動できるようになっていくことが、JRCの良さだと考えます。態度目標の「気づき、考え、実行する」はJRC活動に限らず社会で必要とされるものなので、高校生のうちに学ぶことは大変魅力です。また、JRCは誰もが自分の考えを尊重してくれる、とても温かく居心地の良い場所だと思います。



栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会 副会長  
小山西高等学校 2年 佐藤 鳳亜 さん



JRC活動の魅力は共通の問題に対してともに考え、多くの人意見を聞くことができることだと思います。性別年齢活動経験の異なる人たちの意見を聞くことは、視野を広げることや幅広い知識・考えを得ることにつながります。これは一人ではできないことであり、一番のJRC活動の良さかなと思います。

栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会 議長  
宇都宮高等学校 2年 川島 昊 さん



# 指導者（教師）のための研修会



## 青少年赤十字指導者養成研修会

青少年赤十字を取り入れた指導育成に関心がある方や、青少年赤十字加盟校において初めて青少年赤十字をご担当される方などを対象として開催している研修会で、国際人道法や防災教育、心肺蘇生とAEDについての講習、学校での活動実践例のご紹介、教育委員会の指導主事をお招きしての講演といった内容になっています。

## 防災教育指導者養成研修会

日本赤十字社が作成した、青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」を用いて、実際の授業での展開例の紹介やグループワーク体験等を行います。

各学校における防災教育の普及を目的としています。



## 青少年赤十字指導者研究会

赤十字が主催する研究会や国際交流事業などに参加された指導者からの参加報告や、今後の活動について、研究協議を行うほか、指導者の交流を通して青少年赤十字に対する意識の高揚を図ることを目的としています。

## 栃木県青少年赤十字指導者協議会について

青少年赤十字加盟校の教師で組織し、各地域での青少年赤十字の運営、活動、指導等について協議を行っています。

加盟と同時に青少年赤十字指導者協議会に加入していただくこととなり、協議会活動の運営のため、高等学校のみ一校あたり年会費3,000円を納めていただくことになっています。



青少年赤十字指導者協議会が主催する県内の教師を対象にした研修会を開催しています。研修会では、赤十字や青少年赤十字、国際人道法などについての学習の他、学校の活動事例報告、指導方法等の研究、協議、情報交換など指導に役立つ内容を取り入れています。





## リーダーシップ・トレーニング・センター

夏休みに開催する青少年赤十字の最も特徴ある宿泊体験プログラムです。赤十字や青少年赤十字の歴史、赤十字の基本原則、国際人道法についての学習の他、救急法、フィールドワーク、活動計画づくりなどバラエティに富んだ内容となっています。



## 青少年赤十字大会

県下の幼稚園・保育所、小・中・高等学校や特別支援学校の青少年赤十字メンバーの代表が一堂に集まり、自分たちの活動発表、交流などを行っています。長年の活動に対する表彰も行っています。



## 日本赤十字社北関東三県支部青少年赤十字国際交流事業

青少年赤十字メンバー、指導者を海外に派遣し、青少年赤十字活動の交流を通し、国際理解・親善を図ることを目的としています。



青少年赤十字の態度目標、実践目標を達成するために、児童・生徒自身が参加できる体験学習の場を提供しています。



# 青少年赤十字高等学校連絡協議会の活動



## 新入生歓迎会

新しく入部したメンバーに対して青少年赤十字を紹介する会を開催しています。



## 夏季大会

協議会の役員を選挙によって決定し、新体制をスタートさせる大会を開催しています。



## 海外たすけあい 街頭募金

宇都宮市のベルモールにおいて募金活動を実施しました。



## 高等部リーダー研修会

各学校の活動を一層促進させるために、リーダーとなるメンバーを育成しています。



## 冬季大会

高等学校連絡協議会が行う各種活動の報告を中心に開催しています。

栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会は、青少年赤十字に加盟する高等学校の生徒によって組織され、各種行事を行っています。赤十字普及イベントなどにも積極的に参加し、栃木県内にとどまらず、他県のメンバーとの交流も盛んに行っています。

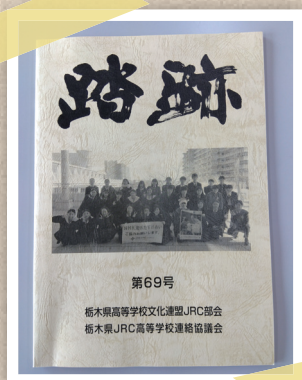






### ウクライナ人道危機救援金 街頭募金

道の駅やいた、ベルモール、道の駅思川において街頭募金をしました。



### 「踏跡」の発行

高等学校連絡協議会の活動報告と加盟校の活動紹介などを掲載している機関誌です。



### 福島県・栃木県高等学校 連絡協議会交流会

福島県青少年赤十字メンバーとの交流をとおして、気づきを得、新たな自主活動につなげることを目的としています。



### 茨城県・栃木県高等学校 連絡協議会交流会

両県のメンバーが一堂に集まり、親善を深めるとともに、青少年赤十字の一員として意識を高め今後の活動の励みとし開催しています。



# 学校紹介

青少年赤十字加盟校では、教師を指導者とし、学校教育の一環として、日常生活のなかで望ましい人格と精神を自らつくりあげることが目的とし、学校内外の実情に応じた活動を展開しています。



## 日光市立湯西川小中学校

湯西川小学校は昭和22年に開校し、中学校は栗山村立栗山中学校の分校として、昭和22年に開校し、昭和26年に独立校となりました。開校当初から両校は併設校です。平成31年度から日光市より小中一貫校に指定されました。へき地2級の極小規模校で、平成元年には、全国へき地教育研究大会の会場校となった湯西川小学校とともに研究発表を行いました。

青少年赤十字活動は、児童生徒が地域との活動の際に意識するように行っています。企画や進行、接し方を児童生徒が考え工夫して実践しています。地域で捕獲した鹿の革細工、地域産野菜を食材とした芋煮会を地域の方と行いました。冬季は地域の方にお世話になり、近くのスキー場でスキー学習を毎週行います。地域への働きかけとして、秋の県道の落ち葉掃きやデイサービス施設訪問を行っています。地域の一員として地域に関わる児童生徒を育成するために、青少年赤十字活動をこれからも推進していきたいです。



地域の方に鹿革細工を教えていただきました。  
キーホルダーを作りました。



地場産の野菜の芋汁とマスの塩焼きを  
地域の方と一緒に作りました。



## 鹿沼市立永野小学校

鹿沼市立永野小学校は、鹿沼市の南西部に位置し、栃木市に隣接している学校です。自然環境に恵まれており、そばやこんにゃく、麻作りが盛んな地域です。児童数22名の小規模校で、「永小ファミリー」と称し、児童同士がなかよく、ノーチャイムで生活しています。

青少年赤十字には、令和4年に加盟しました。態度目標として掲げられている「気づき、考え、実行する」が本校のめざす児童の姿にもつながり、児童にも意識させる良い機会になると考えています。

活動としては、毎年全校で行っている花壇活動や募金活動、委員会で行っている残食0の日の活動、高学年が行うクリーン活動などを行っています。今後は、防災教育プログラムを使用した避難訓練に取り組み、目標に向かって努力したいと思います。



花壇活動の様子



全校児童会の様子

## 栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園

本校は、軽度の知的障害のある生徒の職業的自立を支援する栃木県唯一の高等特別支援学校として、平成28年4月に開校し、令和4年度で7年目を迎えます。

職業科を設置し、流通・環境（清掃/農業）・食品・福祉について学びながら働き続けるための力を身に付け、事業所等と連携した就業体験活動や産業現場等における実習を通して、卒業後の就労、そして社会に貢献できる人材の育成を目指した教育を行っています。

本校では、令和3年度JRCに加盟し、5名の生徒会役員を中心に生徒全員で取り組んでいます。役員が行う「ペットボトルキャップ回収」、生活委員会による「学校周辺の清掃活動」などを中心に年間を通して活動していきます。また、3年生では全生徒対象に「救急法講習」を行います。

他校の生徒の皆さんと協力したり情報交換をしたりしながら、「気づき・考え・行動する」を目標に生徒が主体的に活動に取り組んでいけるようにしたいと考えています。



JRC入団式



学校周辺の清掃活動





# 青少年赤十字登録申込票

登録申込日							
【学校種別】 該当するものを下記番号からお選びください。		15その他 右に記載					
1 幼稚園 2 保育所 3 認定こども園 4 小学校 5 中学校 6 義務教育学校 7 高等学校 8 中等教育学校 9 特別支援学校 10 専修学校 11 各種学校 通信制 (12 独立型 13 併設型 14 協力校 15 その他) 16 高等専門学校							
ふりがな							
学校(園・所)名 (正式名称)		公 印					
学校(園・所)長名							
所在地 (〒 - )							
連絡先		電話:	FAX:				
青少年赤十字 担当教職員名		(主)	(副)				
メールアドレス(任意)		1	2				
【登録形態】 1 全校登録 2 学年登録 3 学級登録 4 委員会登録 5 クラブ活動等 6 その他							
登録する学年	登録形態	メンバー数					
		男	女	計			
計							
		学級数 (上記登録形態1~3の数)					
		委員会・クラブ等のグループ数(上記登録形態4~6の数)					
全校(園・所)児童・生徒数			青少年赤十字指導者数				
男	女	計	管理職 (校長・教頭等)	教員 (管理職・養護・特支 を除く)	養護教諭・特支担当	計	
備考1(学校(園・所)使用欄)							
備考2(支部使用欄)							
注1. この申込書で得た情報は当事業以外では使用いたしません。 注2. 必ず複写をとり、写しを学校控えとして保存してください。 注3. 新規登録の場合のみ、公印を押印してください。 継続登録の場合は公印の省略を可能とします。					(支部使用欄)		
					再新の別 (新規・継続)	受付日	支部受付番号
					継続	年 月 日	

栃木県青少年赤十字指導者協議会  
日本赤十字社栃木県支部

〒320-8508  
宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ4階  
TEL 028-622-4327 FAX 028-624-4940  
<https://www.jrc.or.jp/chapter/tochigi/>